

つくばね vol.27no.2

● 目次

1 図書雑感

3 明治検定期の修身教科書にみる徳目の多様性

6 本学教官寄贈著書紹介

7 私の一冊

9 附属図書館開館日カレンダー

10 Ask Us としょかんミニガイド

12 シリーズ・電子図書館の現状(2)

14 とびつくす

図書雑感

金田 千秋

図書館の運営委員会に顔を出しているせいか、「つくばね」への投稿依頼を頂戴してしまった。しかも「巻頭言」を書けとのお達し。気楽に書いて出せばそれでお役御免、とたかをくくっていたのだが、依頼状に添付された前号の山内芳文図書館長の文章を拝読すると、ヨーロッパ中世の図書館の歴史についての蘊蓄と、未来のあるべき図書館についての見識が披瀝されている。これは大変だ。見劣りしない文章を書くにはどうしよう、と「熟慮に熟慮」を重ねた結果、書物に関わる私の個人的な記憶を拠り所とした文章を書くしかない、という必然的結論に達したのである。そういう訳で、いまから私は、地震のとき本は凶器と化

す、ということについてお話ししようと思う。

それまで長方形だった私の神戸の自宅は、1995年1月17日早朝の大地震で平行四辺形に一次変換されていた。「ほぞ」がすべて破壊されているので修復は不可能と言われ、二ヵ月程してからブルドーザーで解体してもらい、いまは駐車場になっている。

家族に連絡をとろうとしても電話が通じない、という「懊悩の一夜」を過ごしてから、地震の二日後に神戸に入った。しかし内部の片付けには難儀した。本の散乱がただごとではないのである。父親が本好きで大量の本が本棚に載っていたのだ



本館の防災対策として書架上に渡した連結索具



超教室としての図書館

が、それが全部落ちて足の踏み場もない。それだけならまだしも、奥の部屋の本も落下し積み重なり、それがドアを向こう側から圧迫しているために、どうしても中に入れないのである。出火し、中に人がいたら、ドアをどうせんぼしている本に、確実に殺られる。

本は曲者である。本棚に戻そうとしても、その本棚が倒れ損壊している。床のどこかに置こうにも、割れたガラス等が散乱して置き場もない。ものを片付けるには、片付いた時点でそれが占める空間の何倍もの空間が、途中の段階で必要ということらしい。私は早々に諦めた。総合的に考えると、本をいちいち救済するよりも廃棄したほうが得策だ、と。よほどの貴重書なら別だろうが、労力・時間・コストを考えると、廃棄するほうが正しいこともあるのである。(これは古書店の関係者から聞いた話だが、神戸の有力な古書店は、店舗も倉庫も多大の被害を受けたのだが、復旧のためということで、書物を一旦全部売却したそうである。ゼロにしてしまった方が、事業の再建にとって効率的ということらしい。その影響で、全国古書価格が一時下がったとも。)

地震の教訓が三つある。本立てはオープン型が良い。箱式で鍵を掛けたりするのは、転倒・転落したときに、本の重量をもろに受けるので非常に危険である。(ロッカーに本を詰め込んで二段に積むに至っては、「自殺行為」としか言いようがない。満杯なら200kgから300kgはあるだろう。ほら、そこのあなた、そう、あなたですよ、そんなところに座ってどうするの。後のロッカーがあなたの首をへし折ろうと狙っていますよ。)

教訓その二。本を押入に入れるのなら、下の段は避けるのがよい。激震では真ん中の棚がかならず落ちる。下の本に多大の重圧がかかり、押ししても引いても微動だにしない。無理をすれば本を抜くはないだろうが、そのために天井が落ちてきたらどうする？私はこれで三十数巻の「グリムのドイツ語大辞典」の復刻版と生き別れした。

教訓その三。寝室に本立てを置いてはならない。天井の梁や漆喰が落下するとせよ。部屋の真ん中

であなたは寝ている。梁や漆喰はあなたを直撃しないかもしれない。しかしそこに本立てがあったとしたらどうだろうか。あなたの上に本立てが倒れかかり、その本立てのうえに梁や漆喰が落下するという経過をとれば、本立てを仲立ちとして天井の重量があなたの上のしかかるのである。四畳半や六畳程度の狭い部屋の場合、いま述べたようなことが起こる可能性は決して低くない。

週刊誌〈読売ウイークリー 8月19日号〉によると、フィリピンプレートに押されて起こるユーシアプレートの歪みが小さくなってきたそうだ。こらえきれなくなってピョンと跳ね返る可能性(つまり東海地震の可能性)が高まったと見る専門家もいるというのだが、どうなんだろう。専門家が「来る」と言って来なかったら、まずいことになる。しかし「来ない」と言って来たら、もっとまずいことになる。非常に発言しにくい分野だ。結局、個々の人間の判断なのか。しかし神戸で、積んであった旧国鉄の枕木が真横に15メートルも吹っ飛んでいたのを眼にした者としては、悪い方の可能性に賭けざるを得ないのである。

人は本の重さについて錯覚に陥りやすい。先程も満杯のロッカーが200kgから300kgはあると言ったが、個々の本が比較的軽いので、集団となったときの本の重さを人は過小評価しがちなのである。私は最近引っ越しをしたのだが、本だけでダンボール箱で約100個になった。仮に一つ当たり30kgとすると、えーと、 $30 \times 100 = 3000\text{kg}$ 。ということは、私は約3トンもの本について、埃をはたき、箱に納め、ガムテープで封鎖し、何段かに積み、今度はまた箱を開き、取り出し、書架に置くという行為を繰り返したということである。左膝の関節付近にしびれが残り、神経の痛みが走るのも、決して不思議ではない。(ただ3トンのうち、私がすでに何トン読んだのかという点については、心の平静のために、努めて考えないようにしている。)

本には危険な一面がある。(邪悪と言ってもよいかもしれない。)しかし筑波大学図書館については、以上述べたような事態はまず考えられない。

地震のとき、柵から相当数の本が落下することは避けられないだろうが、しかし柵には釘で固定する等々の手を打ってあるそうだし、空間的にもゆとりを持たせてあるから、命に関わるような被害はおそらく出ないだろう。

話は変わるが、私の出身高校の同窓会誌によれば、学校のなかで卒業生にとってもっとも思い出深い建物は何かという問いに、図書館を挙げる声をもっとも多かったという。たいした建物ではない。100平米程度の倉庫みたいなもので、外壁に少し「新古典主義的」な飾りものがついているというだけなのだが、両方に植物が繁茂する階段を登ると、そこに踊り場があり、左に折れてまた階段を登ると正面玄関が見える、という作りが嬉しかった。折れる階段は興奮する。いまは空だが、人気が高いので記念に残してあるとのこと。しかし私の出身高に限り、一般に図書館は卒業生に

とってもっとも人気のある建物ではないだろうか。教育目的の施設なのだが、実際の使われ方はそれに止まらない。教室の延長でありながら、教室とは性格を大きく異にしている。情報収集を別として、この超・教室の重要な機能は二つ。一つは、クラスなり学群という小単位を越えたコミュニケーションの共通の場を提供すること。私の経験を省みても、図書館によって学生相互の交流頻度は増加する。もう一つは、学生に教室という現場から一歩か二歩ぐらい身を引いたところに自分を置き、それとは異なる次元で、そしてそれとは異なる光の下で思索することを促す点にある。そのような仕方図書館は教育を「立体化」するので、教育上この施設は（いまさら言うまでもないことだが）大学にとって必要不可欠なのである。

（かねだ・ちあき 芸術学系教授）

明治検定期の修身教科書にみる徳目の多様性

外池 智

「君ニ忠ニ親ニ孝ニ夫婦相和シ恭儉己ヲ持シ博愛衆ニ及ホス」。これは、今年三月に筑波大学最高齢で博士（学術）を授与された朝倉隆太郎氏をお送りした車中で伺った言葉である。1958（昭和33）年の「道徳」新設に、文部省において中心的に関った朝倉氏は、戦前には序列化されていた徳目をどのように平等に配列するか苦心したという。例えば戦前においては、「親ニ孝ニ夫婦相和シ」であるので、夫婦仲睦まじいのはよい事であるが、親の前では慎むもの、また「夫婦相和」すことより親への孝を優先させるものとされた。また「君ニ忠ニ親ニ孝ニ」というように、その親への孝よりも「君」への忠が優先されていた。すなわち、それぞれの徳目が平等に配列されるのではなく、序列化され、学校教育の修身を中心として教えられていたのである。

こうした徳目の序列化は、教育勅語に始まり、その一元化は教科書の国定化に遡る事ができる。教科書国定制度は1903（明治36）年に定められた

が、小学校の教科書、なかでも修身教科書を国定にすべきとの意見は早くから出されていた。修身教科書は、国民思想の基本となる教科書として重視されたため、早くから最も強く国定の要望がなされていたのである。修身教科書の国定化により、取り上げられる徳目の内容とその配列は固定化された。しかし、国定化以前の検定期（1886-1903）においては、各教科書毎に取り上げられる徳目は実に様々な多様性を有していた。本学では、東京教育大学から引き継いだ宮本文庫を始めとする膨大な教科書群を有し、こうした検定期の多様な様相を今日実見可能にしている。

教科書の検定制度は、学校令の交付とともに1886（明治19）年からはじめられた。元来文部省は、修身には教科書を用いない方針であったので、検定開始当初は、修身教科書の検定は行われなかった。しかし、その後1891（明治24）年に文部省はこの方針を変え、修身でも教科書を使用することにしたので、1893（明治26）年頃から検定を受

けた多くの修身教科書が現れた。とりわけ本学には、この1893（明治26）年を中心とする修身教科書が豊富に所蔵されている。これらの教科書は基本的に教育勅語に基いて編集され、一般に毎学年（毎巻）勅語に示された徳目を繰り返す編集形式をとっていた。これは、明治20年代の修身教科書の特色であり、「徳目主義」と呼ばれている。また、小学校の教育内容については、1891（明治24）年11月に「小学校教則大綱」が定められ、特に「修身」については、「修身ハ教育ニ関スル勅語ノ旨趣ニ基キ児童ノ良心ヲ啓発シテ其徳性ヲ涵養シ人道実践ノ方法ヲ授クルヲ以テ要旨トス」とし、具体的徳目として孝悌、友愛、仁慈、信実、礼敬、義勇などを挙げていた。すなわち、検定期修身教科書は、基本的にはこうした教育勅語や「小学校教則大綱」に掲げられた徳目を中心として、その内容が構成されていた。しかし、そこに示された

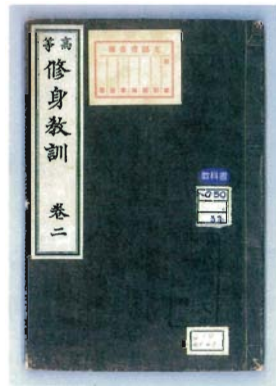
徳目は、基本的なものを示すに留まっていたので、検定期には実に多様な徳目を取り上げられ、その配列と内容も様々に構成された。

例えば、表に示したものは本学所蔵の高等小学校修身教科書のうち、特に数多く所蔵される1893（明治26）年発行の教科書と、1904（明治37）年発行の最初の国定教科書の内容構成を比較したものである。取り上げられる徳目も多岐にわたるが、その配列と編成も多様になされていることがわかる。例えば、安積編は「小学校教則大綱」に沿った形で第一課、第二課「孝行」に始まり、第三課は「友愛」と配列されているが、井上編は「孝行」は第十四章、第十七章、第二十章の三章にわたり配列されている。また、村尾編は、内容を「予備部」「彝倫部」「持己部」など六つの部に分け、そのうちの「彝倫部」において「第八 父母の恩徳」「第九 父の徳」「第十 母の情」とし

1893（明治26）年発行の各高等小学校修身教科書と国定教科書（1904）との比較

井上頼國編	安積五郎著	村尾愷太郎著	文部省（国定教科書）
第一章 誠実	第一課 孝行 藤作、三郎兵衛	予備部	第一課 天皇陛下
第二章 独立	第二課 孝行 太郎八、黒田孝高	第一 良心（総説）	第二課 北白川宮能久親王
第三章 勉学	第三課 友愛 甲田重行、儀助	第二 正心（牧野親成）	第三課 身を立てよ
第四章 改過	第四課 齊家 亀井某、前田筑前守	第三 反省（伊藤東涯）	第四課 職務に勉勵せよ
第五章 潔白	第五課 勤儉 与力某、掃磨屋長右衛門	第四 改過（阿部忠秋）	第五課 皇室をたっとべ
第六章 節儉	第六課 謹慎 米屋八郎兵衛、豊臣秀吉	第五 克己（静證院）	第六課 進取の気象
第七章 節儉	第七課 才徳 今川了俊、麻田剛立	第六 廉耻（義犬）	第七課 正直は成功の基
第八章 謹謙	第八課 勤勉 石瀬浜、田中丘隅	第七 自重（加藤清正）	第八課 仁と勇
第九章 節約	第九課 立志 平田篤胤、小野蘭山	第八 彝倫部	第九課 義快心
第十章 謹言	第十課 品位 藤原良綱、藤原忠平	第九 父母の恩徳（序説）	第十課 誠実
第十一章 沈勇	第十一課 礼節 三助、藤次郎	第十 父の徳（板倉勝重）	第十一課 志を堅くせよ
第十二章 清廉	第十二課 恭敬 島田幽也、渡辺平入	第十一 母の情（赤染右衛門）	第十二課 儉約
第十三章 思慮	第十三課 克己 伊藤仁斎、豊臣秀吉	第十二 養志（亀田窮楽）	第十三課 産業をおこせ
第十四章 孝行	第十四課 寛恕 浅野長友、黒田長政	第十三 承業（こう女）	第十四課 孝行
第十五章 撻道	第十五課 慎言 松平信綱、青山忠俊	第十四 友愛（甲田兄弟）	第十五課 礼儀
第十六章 貞節	第十六課 敬愛 常陸屋某、和泉屋喜兵衛	第十五 和順（毛利勝永夫婦）	第十六課 習慣
第十七章 孝行	第十七課 反省 蒲生氏郷、井上正利	第十六 親交（藩山と竹友）	第十七課 よき習慣をつくる工夫
第十八章 寛大	第十八課 博愛 市兵衛、三郎兵衛	第十七 持己部	第十八課 自立自営
第十九章 益友	第十九課 忠孝 いち女、氣比齋晴	第十八 正直と白重（土井利勝の談話）	第十九課 規律正しくあれ
第二十章 孝行	第二十課 忠孝 藤原邦光、平重盛	第十九 正直と寛恕（岩崎某）	第二十課 公益
		第二十 周密（桓武天皇）	第二十一課 公益（つづき）
		第二十一 周密と機敏（北條新蔵）	第二十二課 勤勞
		第二十二 節儉と廉潔（青砥藤綱）	第二十三課 忍耐
		第二十三 博愛部	第二十四課 生き物をあはれめ
		第二十四 深切（桂昌院）	第二十五課 親切
		第二十五 深切と仁恵（三宅観瀾）	第二十六課 博愛
		第二十六 施恩（新見屋新右衛門）	第二十七課 祝日祭日
		第二十七 敬師（花山院定誠）	第二十八課 復習
		第二十八 立志（小田雪舟）	
		第二十九 応用（二宮尊徳の談話）	
		第三十 公心と私心（藤作）	
		第三十一 敬吏（儀左衛門）	
		第三十二 義勇（大伴部博磨）	
		第三十三 追孝（桓武天皇）	

井上頼國編『高等小学終身書 卷一上 生徒用』（坂上半七、1893）。
 安積五郎著『国民修身書 卷一』（普及舎、1893）。
 村尾愷太郎著『高等修身教訓 卷の一』（樹徳館、1893）。
 文部省『高等小学修身書 第一学年児童用』（秀英舎、1904）。



村尾愷太郎著「高等修身教訓 卷一、卷二」



森倫之部 第十 母の情

て取り上げている。さらに、個別の徳目に対して取り上げられる説話も、例えば「孝行」に関して安積編では第一課で「藤作，三郎兵衛」，第二課で「太郎八，黒田孝高」であるが，井上編では第十七章で『日新館童子訓』から会津藤衛門，第二十章では同じく『日新館童子訓』から備中惣十郎，市助兄弟の説話，村尾編では第九で板倉勝重，第十で赤染右衛門というように，各教科書で重複することなく，実に多様な説話を取り上げている。

徳目に対応する内容も，安積編の第一課では「孝は，百行の本なり」として「孝行は，諸の善き行の本となるものにて，譬へば，木の幹と，枝の如きものなれば，克く，孝行を盡して，諸の善き行の幹とせずはあるべからず」とされ，井上編の第十四章では『初学知要』から「夫れ仁愛は人の心なり，而して愛は親を愛するを以て至大となす，故に人の行ひ万端なりと雖も，孝より大なるはなく，孝より先なるはなし」として，説話の前に多様な「孝行」論を講じている。一方，国定教科書の第十四課では，こうした高等小学生には難

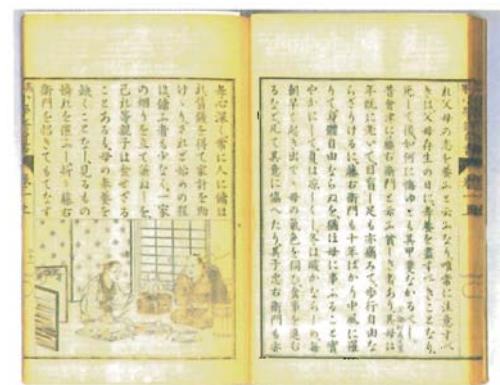
解とも思える論及は消え，「鷹山は孝行の心深き人なりき。つねに，父重定のもとにゆきて，その安否をたづね，重定の没するまですこしも怠ることなかりき」というように，比較的平易な表現で，上杉鷹山の説話によって内容構成されていた。

以上のように，教科書国定化により徳目が一元化される以前の検定期においては，取り上げられる徳目，その配列，関連する説話，内容など，実に多種多様に及んでいた。本学の所蔵する豊富な教科書群は，こうした固定化される以前の多様な徳目の有様を，今日に示している。またここでは，明治検定期の高等小学校修身教科書のうち，特に1893（明治26）年のものに限定して取り上げたが，蔵書としてその他の年の教科書はもちろん，女子修身書，中学修身書，そして教師用指導書まで豊富に所蔵され，より多角的な検分を可能にしている。

（とのいけ・さとし 教育学系助手）



井上頼園編「高等小学修身書 卷一上下 生徒用」



第十七章 孝行



本学教官寄贈著書紹介

平成13年4月～6月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介します。

(敬称略, 寄贈者五十音順, []内は配架場所と配架番号です。)

青柳悦子 (現代語・現代文化学系)

- ・現代文学理論：テキスト・読み・世界 / 土田知則, 伊藤直哉共著. 新曜社, 1996 (ワードマップ) [中央 901-Ts26]
- ・文学理論のプラクティス：物語・アイデンティティ・越境 / 土田知則共著. 新曜社, 2001 (ワードマップ) [中央 901-Ts26]

池田裕 (歴史・人類学系)

- ・旧約聖書時代の国々：歴史と文化の多様性 / 足立拓朗編集. 中近東文化センター, 2001 [中央 209.3-A16]

伊藤太一 (農林工学系)

- ・Environmentalism in landscape architecture / edited by Michel Conan. Dumbarton Oaks Research Library and Collection, c2000 [中央 629-C86]

大島宣雄 (基礎医学系)

- ・Tissue engineering for therapeutic use 5 : proceedings of the Fifth International Symposium on Tissue Engineering for Therapeutic Use, Tsukuba, Japan 16-17 November 2000 / editor, Yoshito Ikada. Elsevier, 2001 [医学 491.11-I31-5]

門脇厚司 (教育学系)

- ・「大人」の条件：「社会力」を問う / 佐高信共著. 岩波書店, 2001 [中央 371.3-Ka14]
- ・海外日系企業と人的資源：現地経営と駐在員の生活 / 岩内亮一ほか著. 同文館出版, 1992 [中央 336.4-I97]

桜井茂男 (心理学系)

- ・発達臨床心理学の最前線 / 杉原一昭監修. 教育出版, 2001 [中央 143-Su34]

佐藤泰正 (名誉教授), 徳田克己 (心身障害学系)

- ・社会福祉研究の課題と方法. 田研出版, 2001 [中央 369.07-Sa85]

司馬正次 (名誉教授)

- ・Four practical revolutions in management : systems for creating unique organizational capability / David Walden. Productivity Press, c2001 [中央 509.66-Sh15]

庄子良男 (社会科学系)

- ・現代企業法学の研究：筑波大学大学院企業法学専攻十周年記念論集 / 筑波大学大学院企業法学専攻十周年記念論集刊行委員会. 信山社出版, 2001 [中央, 大塚 335.04-Ts66]

鄭小平 (社会工学系)

- ・地域政策の理論と実践. 大学教育出版, 2001 [中央 601.1-Te21]

徳田克己 (心身障害学系)

- ・車いす使用者の交通安全ニーズに関する調査研究：報告書. 国際交通安全学会, 2001 (研究調査報告書; 平成12年度) [中央681.3-Ke45-2000]
- ・視覚障害者の歩行者としての交通安全ニーズに関する調査研究：報告書. 国際交通安全学会, 1999 (研究調査報告書; 平成10年度) [中央 681.3-Ke45-1998]
- ・視覚障害者の歩行中の交通事故を防ぐための具体的な対策の提言：報告書. 国際交通安全学会, 2000 (研究調査報告書; 平成11年度) [中央 681.3-Ke45-1999]
- ・大学に対して求められる介護等体験の効果的な事前・事後指導：事前・事後指導実施の実態と関係者のニーズに関する調査報告 / 海老沢千冬, 塙和明共著. 障害理解研究会出版部, 2001 [中央 378-E15]

長澤俊郎 (臨床医学系)

- ・図解血液学テキスト / 古澤新平, 壇和夫共



編著. 中外医学社, 2001 [医学 491.321-F94]

浜田博文 (教育学系)

- ・「大学における教員養成」の歴史的研究：戦後「教育学部」史研究 / TEES研究会編. 学文社, 2001 [中央, 体芸 373.7-T]

星野靖雄 (社会工学系)

- ・Corporate mergers in Japan. Toyo University, Business Research Institute, 1983 (Research paper series ; no. 1) [中央335.46-H92]

安信誠二 (機能工学系)

- ・システム工学通論 / 山田新一, 藤川英司共著.

コロナ社, 2001 [中央 509.6-Y19]

吉原ゆかり (文芸・言語学系)

- ・国家身体はアンドロイドの夢を見るか / 末廣幹責任編集. ありな書房, 2001 (初期近代イギリス表象文化アーカイヴ; 1) [中央, 体芸 233.05-Su16]
- ・ポストコロニアル理論入門 / アーニャ・ルーンバ著. 松柏社, 2001 (松柏社叢書 言語科学の冒険; 14) [中央 361.5-L87]

私の一冊

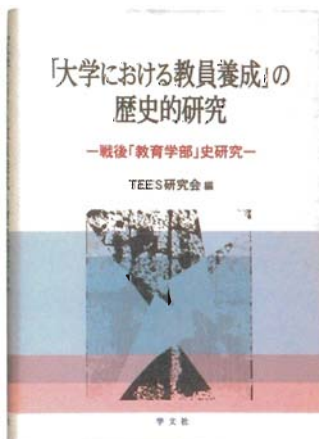
浜田 博文

『「大学における教員養成」の歴史的研究』

—戦後「教育学部」史研究—

TEES研究会編 (学文社)

[中央, 体芸 373.7-T]



本書は約11年間にわたる共同研究の成果をまとめたものである。執筆にあたったメンバーは総勢14名だが、諸般の事情で途中退会していった者を含めると共同研究の参加者は20名。今でこそ、みんな大学等で研究者としての「定職」を得ているが、研究をはじめた頃は、その半数近くが大学院生だった。

学校経営学、教育制度学、教育行政学、教育史学など、さまざまな分野にわたる(当時の)若手研究者が年間3～4回の合宿研究会を「自腹」で

続けてきたのは、教育学研究者としての自らの「足場」を確かめたいという強い思いがあったからだ。しかし、この研究と時を同じくして進められてきた教育改革と大学改革は、社会・経済構造改革の波の中で「教育学部」の解体を急激に推進しつつある。新制大学発足後50年を経てもなお、「教育学部」は学校教員の量的供給という機能でしかその存在意義を認知されていないのである。

皮肉にもそんな折に、これまで一度も科学研究費補助を受けることができなかったこの研究の成果を、「研究成果公開促進費」によって刊行することになった。

研究に参加したメンバーは、東北大学、筑波大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、奈良女子大学、大阪大学、広島大学、九州大学の各大学院博士課程出身者。その後の「足場」は、大学・短大の教職課程、大学の教員養成系学部、そして非教員養成系学部など、多彩である。しかしいずれも、教育学研究、教育学教育、そして教員養成教育が交錯する場でそれぞれの試行錯誤を重ねている。出身大学院や専門学会の垣根を越えてわれわれが思いを共有してきたことは、けっして個人的な偶然ではない。そんなところまで読み取っていただけると幸いである。

(はまだ・ひろふみ 教育学系講師)

徳田 克己

「社会福祉研究の課題と方法」

佐藤泰正・徳田克己編著（田研出版）

[中央 369.07-Sa85]



社会福祉に関する世の中の関心はますます深くなっている。それはどの学問の領域でも同じであり、福祉的な視点のない研究は「時代遅れ」と評されるようになってきている。学問の目的のひとつは、人類の幸福を求めることにあり、その意味では高齢者や障害者のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上を直接目標にした「福祉学」は「哲学」とともに学問の中心に据えられなくてはならないものかもしれない。

社会福祉研究は「科学」ではないと言われてきた。それはこれまで出版されてきた多くの本の書名や大学等での授業名が「社会福祉論」であって、「社会福祉学」ではなかったことからもうかがわれる。

筑波大学には福祉学に関する研究をしている専門家が大量にいる。医学、教育学、社会学、心理学、工学、障害学、体育学、看護学、法律学、経済学などの分野はもちろんのこと、農学、芸術学、国際学、文学、歴史学など従来は関係がそれほど深くないと思われていた分野においても、福祉に関わる研究が行われてきている。

例えば、福祉工学という分野がある。従来この分野の研究者は工学系の研究者の中でも「変わった研究者」の手がけるテーマであった。しかし現在は、土木、都市工学、機械工学などでは確たる存在感を示す領域となっており、多くの、変わり

者も変わっていない者も手がけるテーマになってきている。しかし、福祉をちょっとかじっただけの工学研究者は、時には「とんちんかんな福祉機器や福祉施設」を世に送り出してしまうことになる。福祉の基礎的な勉強、特に高齢者や障害者などの福祉対象者の現実的なニーズに関する勉強が足りないのである。

本書は短期大学や大学で福祉を勉強し、社会福祉に関わる卒業論文を書こうとする人たちのために書いた「研究の手引書」である。児童福祉（保育、要保護、障害児）、視覚障害福祉、聴覚障害福祉、肢体不自由者の福祉、知的障害福祉、精神障害福祉、老人福祉、家族支援、地域福祉、ボランティア、バリアフリー、福祉工学、国際福祉、家族福祉、社会福祉援助技術、医療福祉、福祉の歴史、福祉の法律・制度、福祉教育のそれぞれの領域を取り上げてある。これらの社会福祉の領域で、現在何が課題になっており、それを解決するにはどのような方法論が用いられるか、基本的な参考文献にはどのようなものがあるのかなどについて案内してある。

学生だけではなく、他の分野の研究者で、福祉的なテーマで研究を始めようとする人たちにも読んでもらいたい。そうすれば、「とんちんかんな福祉機器や福祉施設」はもっとずっと減っていくであろうし、どこでもここでも「段差」がないのがバリアフリーであるなどといった誤解が少なくなっていくであろう。

高齢者や障害者や子どもたちに、ただ優しく接すること、望みをかなえるように周囲が努力することだけが「福祉的かわり」ではない。「おもいやり」や「障害者のニーズ」を「侵してはならない根本原理」として考えてしまうことは、福祉を中途半端に勉強した人が陥る落とし穴である。本書では、福祉対象者をとらえる目を適正にもってもらうように記述したつもりである。本書を通して、適正な高齢者理解、障害理解、福祉の理解が進むことを願っている。

（とくだ・かつみ 心身障害学系助教授）


 平成13年度 筑波大学附属図書館開館日カレンダー

中央・体芸・医学図書館

10月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		



12月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
						2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		



2月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

無印 9:00~22:00

 中央・体芸 9:00~17:00
 医学 9:00~20:00

 13:00~18:00

 中央・医学 13:00~18:00
 体芸 休館

大塚図書館

10月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		


12月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
						2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						


1月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

無印 13:00~21:10

 9:00~17:00

 13:00~19:50

 休館

※ 臨時休館等の場合は掲示でお知らせします。



「目次情報の使い方について」

今回は、学术论文のデータベースを使って雑誌の目次を調べる方法をご紹介します。本学学内LANで利用できるCurrent Contentsと、インターネットで公開されているIngentaはともに、洋雑誌の速報性のある論文データベースで、雑誌名や巻号からの検索機能を使って研究に有用な雑誌の内容を手元のコンピュータ上で調べることができます。

Q：Current Contentsはどこで使えますか。

A：各図書館内に設置されている情報検索端末や学内LANに接続されたコンピュータで、WWWブラウザを使って検索できます。筑波大学電子図書館→学术论文情報データベース→CurrentContentsの順にアクセスし(図1)、ここから検索サーバに接続してください。



図1 Current Contents メニュー画面

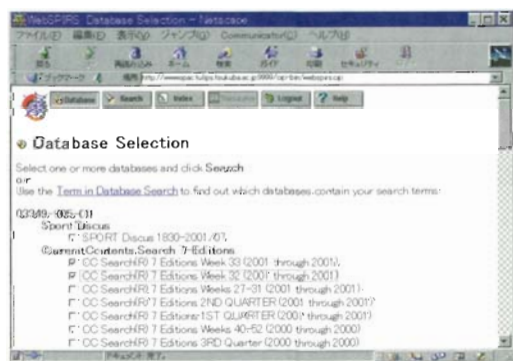


図2 Current Contents データベース選択画面

データベースは毎週更新され、最近のものは1週間毎に分かれています。データベース選択画面(図2)で検索したい期間を必要なだけ選んで、画面の上下にある“Search”ボタンで検索画面(図3)を開いてください。

Q：雑誌名や巻号からはどうやって検索するのですか。

A：雑誌名・巻号などの情報は“SOURCE”というフィールドに

雑誌名. 月[日]年; 巻(号); ページ
 NATURE-AUG 2 2001; 412 (5846): 463
 DRUG-DISCOVERY-TODAY JUL 15 2001; 6 (14) : 703-704.

という形が入っています。検索語の後に“in so”をつけて検索するとこのフィールドと検索語が一致する論文を検索できます(図3)。

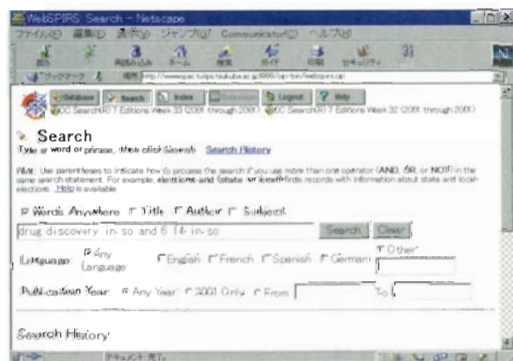


図3 Current Contents検索画面(入力例)

・雑誌名の検索

語をスペースで区切って最後に in so をつけると、そのフレーズを含む雑誌名を検索します。

例：drug discovery in so

また、語をハイフンでつないだ形で、完全一致検索ができます。前方一致検索の場合は後ろにアスタリスク“*”をつけて下さい。

例：drug-discovery-today in so
drug-discovery* in so

一語の雑誌名は、後ろにハイフンをつけると完全一致検索ができます。

例：nature- in so

・巻号の検索

巻や号の数字で検索できます。“巻(号)”という表記になっていますが、括弧は無視して検索できます。

例：nature- in so and 412 6846 in so

として検索すると、

NATURE-AUG 2 2001; 412 (6846)

の論文が検索できます。

Q：Ingentaはインターネットで公開されているということでしたが、どのようにして使うのでしょうか。

A：WWWブラウザで、<http://www.ingenta.com/>にアクセスして下さい。筑波大学電子図書館からも、学術論文情報データベースのページに「その他のデータベース」としてリンクがあります。



図4 Ingentaホームページ

Ingenta(図4)はUncoverと合併後、1988年以降の旧Uncoverの文献情報と、Ingentaのオンラインジャーナルを無料で検索して抄録まで表示できる

サービスUnCoverPlusをインターネットで公開しています。

雑誌名や巻号から論文を検索するには、search articlesの方の“search options”の画面を開いてください(図5)。タイトルやキーワード、著者名の他に、publication title, volume, issueを指定して検索できるようになります。

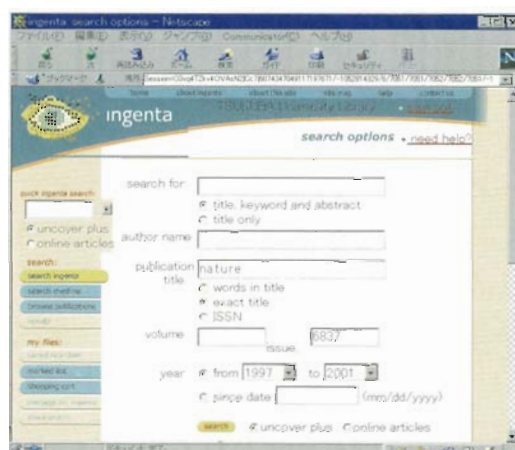


図5 Ingenta “search options”の画面

Q：目次情報を調べる方法には他にどのようなものがありますか。

A：オンラインジャーナルの alert 機能と呼ばれるものがあります。

筑波大学と出版社との契約とは別に、個人でオンラインジャーナル出版社のWebサイトに登録して、電子メールで最新号の目次の配信が受けられるサービスで、Alert 機能単体の場合と、personal homepage というWebサイトのパートナーライズ機能の一部となっている場合があります。現在のところ、出版社毎に、

- ・ IDEAL(Academic Press社ほか): IDEAL(R)Alert
- ・ LINK (Springer社) : LINK.Alert
- ・ Wiley Interscience: Personal Home Page
- ・ Synergy(Blackwell Science社, Munksgaard社): personal homepage

などが提供されています。



シリーズ・電子図書館の現状（2）

コンテンツ(学内生産資料)の入力状況

電子図書館で提供しているコンテンツには、

- (1) 学内生産資料（学位論文等）
- (2) 学内収集資料（貴重書）
- (3) 電子ジャーナル

がありますが、今回は学内生産資料の入力状況についてご紹介します。附属図書館は電子図書館で発信するコンテンツとして学内で生産される研究成果を特に重視しています。学内の研究者のご協力をいただき、平成9年からの5年間で1,300件以上の研究成果を電子化してきました。

学内生産資料は

- (1) 学位論文（約900件）
- (2) 科研費による研究成果報告書・特別プロジェクト等の報告書（約200件）
- (3) 紀要（51誌）
- (4) シラバス等の学事報告書（約170件）

からなります。これらの電子化作業は館内で次のような手順により行っています。

1 電子化作業の実際

(1) 目次入力

まず目次を入力します。紀要類は論文単位、学位論文等は原則として章単位で目次情報を入力しています。

(2) スキャニング・画像編集

スキャナで各ページの画像を読み取ります。電子化作業のために余分に資料を提供していただき、資料の背を裁断して1枚ずつに切り離し、オートシートフィーダにかけてスキャンします。裁断用の資料がない場合は上向きスキャナで原本を1ページずつスキャンしていきます。学位論文には200～300ページに及ぶものが多数ありますので、たいへん根気のいる作業です。画像の解像度は100～200dpi、256階調のグレースケールで読み込みます。個々の資料の印刷や紙質の状態により、最適な読み取りの設定が異なるので、満足な結果

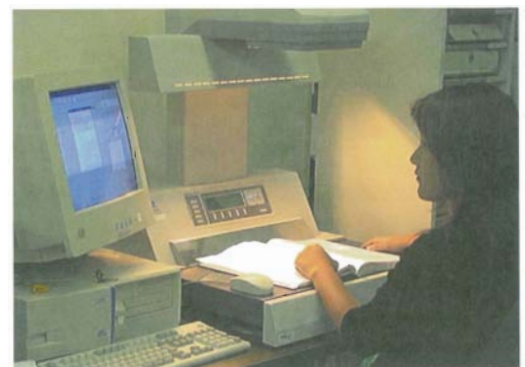
が得られるまで何度かプレスキャンを繰り返します。スキャン後に再度画像を確認し、不具合があれば画像編集ソフトでマスキング・トリミング処理を行います。また、色刷りのページが含まれている場合は、その部分のみカラーレスキャナで読み取り、後でモノクロページと合成します。

(3) フォーマット変換

読み込んだ画像は1ページ1ファイルのTIFF形式で保存されていますので、先に作成した目次の単位にまとめてPDFファイルに変換します。作成したPDFファイルは画像蓄積サーバに転送し、一つの資料ごとに一つのディレクトリを作成し、その下にまとめてPDFファイルを置きます。

(4) 画像登録

次に画像ファイルと目次情報の関連付けを行うためのページ情報ファイルを作成します。その後画像登録ツールを用いて画像とページ情報ファイルを検索用のディレクトリに置いて一連の作業が終了します。



オートシートフィーダ付スキャナ(上)と上向きスキャナ(下)によるスキャニング

2 データの品質・作業効率向上のために

現在のところ、目次作成・スキャニング・画像ファイル作成・ページ情報ファイル作成等の各工程を一貫して行うことのできるシステムがなく、これら一連の作業手順を習得するにはかなりの時間がかかります。平成14年1月に更改される新電子図書館システムは、コンテンツ登録の裏方である入力システムにも配慮されたものとなっており効率アップが期待できます。今まで試験的に行ってきたOCRによる全文検索用テキストデータの作成も本格的に開始する予定です。

また、このような労力と時間をかけて作成しているにも拘わらず、現在提供している画像データの品質はかならずしも満足のできるものではありません。電子ジャーナル等の電子テキストから作成されるPDFデータと比べるとその差は歴然としています。電子媒体で研究成果を提供して下さる方もいらっしゃいますが、まだごく僅かです。使い勝手の向上・作業の効率化という面からも優れていますので、今後は電子媒体でのデータ提供の促進を図っていきたくと考えています。

3 コンテンツの充実へ向けて

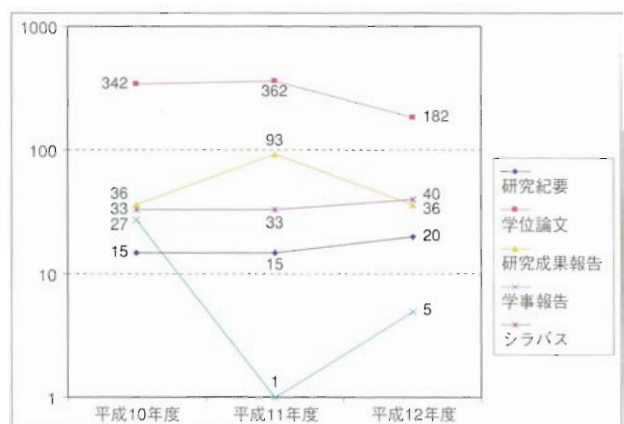
学内の研究成果は研究者の協力を得て電子図書館に登録していただいておりますが、電子図書館の存在が十分に認識されているとは言い難く、待っているだけではなかなか登録件数は増えません。このため、附属図書館では著作の種類ごとに登録促進のためのアクションプランを実施しています。

学位論文については、毎年300件以上の博士の学位が授与されていますが、電子図書館に登録申請されているのはその半数程度です。学位論文審査願とともに電子図書館への登録申請書を渡してもらうよう学内関係者に依頼したり、学位記授与式会場で申請書を配布して学位記授与者に登録の呼びかけを行ったりして登録件数の増加を図っています。過去分については学位記授与者に依頼文書を送付した結果、約400名の方に登録していただくことができました。今後はさらに登録率をアップさせるために指導教官の方々との連携も深

め、登録のためのシステム作りも必要と考えています。

プロジェクトや科研費による研究についても、毎年研究代表者に依頼文書を送付し、登録をお願いしています。しかしながら、理系の論文は学会誌に発表済の(=著作権が学会に譲渡されている)ものが多く、せっかく電子図書館に登録申請していただいても全文の公開が難しいことがあります。文系の場合は、出版社から刊行されているので抄録部分のみ公開という条件つきで登録申請されることがあります。

紀要については、本学では100種類以上のタイトルが発行されていますが、原文が電子化されているのは、現在のところその半数です。紀要原文の電子化については、執筆者全員の著作権上の許諾が必要のため、バックナンバーに遡って行うことは困難です。新しく発行される号から始めて、徐々にタイトルを増やしていきたいと考えています。



登録件数の推移

附属図書館では電子図書館へ研究成果を登録することの意義をご理解いただき、ひとりでも多くの方に登録していただきたいと願っています。研究成果の登録申請はいつでも受け付けておりますのでご連絡ください。

*お問い合わせ先：電子情報係(内線2470)

メールアドレス：voice@tulips.tsukuba.ac.jp



〔学外〕

第47回関東地区国立大学図書館協議会総会

4月20日(金)群馬大学の当番で開催されました。

〔報告〕○平成12年度第3回国立大学図書館協議会理事会について○国立大学図書館協議会電子ジャーナル・タスクフォースの活動について、ほか

〔協議〕○大学評価と附属図書館の取り組みについて—大学における附属図書館の役割をどう考えるか—、ほか

第48回国立大学図書館協議会総会

6月27日(水)～28日(木)北海道大学学術交流館において、北海道大学の当番で開催されました。全体会議

〔報告〕○一般経過報告○国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会報告○国立大学図書館協議会海外派遣者選考委員会報告○図書館電子化システム特別委員会報告○著作権特別委員会報告○電子ジャーナル・タスクフォース報告○「日米両国における学術情報アクセスの改善のための情報担当者会議」報告○各地区協議会報告○国公立大学図書館協力委員会報告○日本図書館協会関連報告

〔協議〕○理事選出について○監事選出について○平成12年度決算報告・同監査報告について○平成12年度岸本英夫博士記念基金収支決算報告・同監査報告について○平成13年度事業計画(案)について○平成13年度予算(案)について○グローバルILL/DDの推進について○ドキュメント・デリバリー・サービスの運用について○文部科学大臣等への要望書について、ほか

合同分科会

〔協議題(テーマ)〕○大学の管理運営体制における附属図書館長の位置付けと役割について○電子ジャーナルについて○総合情報処理センター(情

報処理センター)等の学内情報関連施設との統合等も視野に入れた連携強化策について○教育研究基盤校費と図書館予算のあり方について

〔学内〕

第237回附属図書館運営委員会(4月開催)

〔審議〕○副委員長を選出について○平成13年度専門委員会委員の選出及び委員長の指名について、ほか

〔報告〕○土曜日・日曜日及び祝日開館における貸出サービスの試行について、ほか

第238回附属図書館運営委員会(5月開催)

〔審議〕○平成12年度附属図書館資料購入計画決算報告書(図書館経費)について○平成13年度附属図書館資料購入計画(図書館経費)について、ほか

〔報告〕○平成12年度附属図書館業務統計について、ほか

第239回附属図書館運営委員会(6月開催)

〔審議〕○平成12年度版筑波大学年次報告書(附属図書館)について

〔報告〕○研究図書委員会(第28回)について、ほか



哲学・思想学系、文芸・言語学系、附属図書館共催特別展「日本古代の学問と萬葉集」開催のお知らせ

会期：平成13年10月22日(月)～11月2日(金)

平日 9:00～17:00 土・日 13:30～17:30

場所：中央図書館1階 貴重書展示室及び和装本閲覧室